



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.8

公民の試験範囲（1学期中間試験）について

(1) ノート提出について

公民の試験当日に、ノート提出をしてください。1年生の時の歴史と同じように、ノートの左側ページのノートプリントを確実に仕上げているか、右側ページの「自分でまとめた学習内容」や「自分の意見」などを整理しているかを確認します。ノートの評価は、1学期の評定に「平常点」として組み入れます。

(2) 「なんでやねん」(用語解説編)と『ビジュアル公民』の試験範囲について

「なんでやねん」(用語解説編)のすべての号の1ページ目は、公民の教科書(東京書籍版『新しい社会 公民』)の本文を印刷したものです。

中間試験の試験範囲は、「なんでやねん」(用語解説編)では、No.1「グローバル化」、No.2「情報化」、No.3「少子高齢社会」です。本文を必ず、よく読んで内容を自分で説明できるようにしておいてください。

なお、「用語解説編」の本文の中で、「見出し」で使われている言葉や、ゴシック体で強調されている語句は、大事なキーワードです。必ず、意味を説明できるようにしておいて下さい。

『ビジュアル公民』では、p.12～p.17を試験範囲とします。授業中に利用したグラフなどの資料や、「基本用語」の説明文を確認しておいて下さい。

(3) 「なんでやねん」とノートプリントの試験範囲について

「なんでやねん」では、No.2～No.7までを試験範囲とします。「天ぷらそばは和食と言えるか」「日本の食料自給率とグローバル化との関係」「情報化社会の特徴」「情報化社会でおきる問題はどんなことか」「少子高齢社会の問題点は何か」「少子高齢社会を生み出した背景には何があるのか」などです。

ノートプリントの一番上に「学習目標」を書いています。必ず読んでおいて下さい。定期試験では「学習目標」にたどり着けているかどうかを評価します。

また、ノートプリントの内容を復習して、学習内容の「社会問題」に対して「自分の意見」や「自分の感想」をまとめておくことが大切です。

(4) 「知識・理解」と「資料活用技能」に関すること

和食、食料自給率、グローバル化、国際分業、国際競争、外国人労働者、多文化社会、情報化社会、メディア、インターネット、コンピュータ、電子マネー、クレジットカード、情報リテラシー、情報モラル、少子高齢社会、人口ピラミッド、合計特殊出生率、高齢者、家族、三世帯世帯、核家族世帯、単身世帯、年金制度。

以上のことについての正確な理解や、統計資料やグラフの読み取りを試します。統計資料やグラフは『ビジュアル公民』や「なんてやねん」から出題します。

(5) 「思考力・判断力・表現力」に関すること

- ◎ 天ぷらそばが和食だとする立場と、和食ではないとする立場の論拠^{ろんきょ}の違い。
- ◎ 食料輸入ができないようになると私たちの生活はどうなるか。
- ◎ 日本の食料自給率低下と、産業の工業化とどのような関係があるか。
- ◎ 情報リテラシーは、なぜ必要なのか。
- ◎ SNSなどで友達の悪口を書くことがどのような結果を招くか。
- ◎ どうして子どもが増えないのだろうか。増えないと困ることになるのか。

(6) 「主体的に学ぶ」(課題作文)に関すること

次の課題で作文を書くことを求めます。

【作文の課題】

2019年の日本の社会では、少子高齢化が進行しています。このままの状況が続くと、2060年には日本の人口は8,674万人になると言われています。

そんなことを勉強しているときに、あなたは、政府関係の仕事をしている人から「とりあえず、高齢者の増加による問題の解決方法は置いておいて、少子化の問題を解決する方法はありませんか。あなたの意見を聞かせて下さい」と、アイデアを求められました。

少子化問題の解決策を考えると、「男性は仕事、女性は家庭」と考え、女性の社会進出^{しゅうしゅつ}(就業)が少子化の原因だと主張する人達もいます。

少子化で起こる問題点を指摘し、あなたが考える解決方法を説明しなさい。

【作文を書くためのヒント】

- ① 少子高齢化が進んで人口が減ると、どのような問題が起こるのか。
- ② 少子化が起きている原因は何か。
- ③ 子どもを産み育てることがしやすい社会や家庭生活はどうすれば実現するか。